

授業科目 (ナンバリング)	臨床検査学 (NY409)			担当教員	隈 博幸		
展開方法	講義	単位数	1.5 単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							アクティブラーニングの類型
臨床検査は、現代医学にとって必須なものとなっており、医師のみならず、薬剤師、看護師などの医療従事者もその「意義」と「意味」を理解しておく必要がある。本講義では、現代における臨床検査の位置づけ、意義、検査値の意味を理解するために、各種疾患における生体内での化学反応と、結果として臨床検査値に現れる数値との関連性を学修し、検査項目と疾患との関係を理解できるようにする。							①②⑨
ホスピタリティを構成する能力	学生 学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標				評価手段・方法		評価比率
専門力	(1)現代医学における臨床検査の重要性について説明することができる。(2)与えられた検査値から、疾患を推測することができる。(3)各検査項目の基準範囲について説明することができる。				<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 課題 		70% 30%
情報収集、分析力							
コミュニケーション力							
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容の理解度を深めるために、必要に応じ講義中や講義後に様々な課題を課すことがあり、その成果について 30% を基準として評価を行う。課題に関するフィードバックは、授業中に口頭で適宜行う。 ・ 定期試験は、基本的な医学用語の理解を前提として、ヒトの各器官・臓器の持つ生理的な役割や異常が生じた際の疾患概要に関する設問を、五者選択方式で出題する。 							
授 業 の 概 要							
<p>人体の各臓器・器官に生じる疾患及び検査値異常と診断についての修得を主眼として講義を行う。ヒトの臓器や器官の名称や基本的役割については、「機能形態学」「臨床医学概論」等で履修するので、その復習を事前に行っておくことが望ましい。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分です。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：別途プリントを配布する。</p> <p>参考書：標準臨床検査医学（第4版：医学書院）</p> <p>指定図書：薬学生のための病態検査学（南江堂）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>配布されたプリントや参考書等を利用して予習・復習をしっかりと行うこと。講義プリントはポートフォリオに随時アップ予定である。参考書は図書館や担当教員の部屋にあるので、積極的に利用すること。質問等も大いに歓迎する。</p> <p>※オフィス・アワー：試験期間中等特別な場合を除き、在室中はいつでも訪問可能（薬学研究棟 P210）である。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習	到達目標番号*
1	序論	臨床検査の意義、注意点	配布プリントで復習し、臨床検査の意義について理解すること	113
2	尿・糞便検査	尿及び糞便検査と関連疾患	尿検査と糞便検査の意義を理解すること	784
3	肝機能検査	肝機能に関する検査と関連疾患	肝機能について復習し、疾患を整理する	776
4	腎機能検査	腎機能に関する検査と疾患	腎機能と疾患の関係を理解すること	777
5	呼吸機能検査	呼吸機能、動脈血ガス分析に関する検査	COPD の病態について復習すること	778/785
6	心機能検査	心機能に関する検査と疾患	心機能について正しく理解しておくこと	779
7	血液検査	血液検査と疾患	血液の性質を理解し、関連疾患をまとめること	780
8	血液生化学検査（1）	血液生化学検査と疾患	生化学検査と疾患の関係を整理すること	780
9	血液生化学検査（2）	代謝・内分泌系の検査と疾患	内分泌・代謝機能を理解しておくこと	781
10	血液生化学検査（3）	症例研究（アクティブラーニング）	指定された症例について予習すること	
11	悪性腫瘍	悪性腫瘍に関する検査と腫瘍部位の推測	悪性腫瘍の種類を正しく理解すること	783
12	感染症・炎症	感染時・炎症時に認められる検査数値の変動	炎症の仕組みを理解し、臨床検査との関連を整理する	782
13	その他の検査法	クロマトグラフィー・免疫検査・ドライケミストリー	それぞれの検査法の原理を復習すること	110/119
14	検査手法・標準化	機器分析と自動化、用手法について、検査数値の標準化	配布プリントで復習を行うこと。	
15	まとめ	まとめの講義		
16	定期試験			

注）上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号／項目対応表を参照して下さい。